



414
A1309



表願書

天正十一年四月
長瀬侯爵

右舊佐賀藩元卒三千五百餘人総代頓首
 々々謹テ奉表願候私共世襲ノ家禄明治
 二年藩兵編成ノ際ニ老弱廢疾ノ徒
 或ハ入隊スル能ハサル輩ヲシテ其禄ヲ
 分タシメ之ヲ以テ兵士ノ勞ニ酬ヒ其勞
 逸ヲ平均セシムカ為メ今年十二月元禄
 高ノ内八分或ハ六分ヲ徴收シ之ヲ兵給
 ニ充テラレ僅ニ残高二分或ハ四分ヲ以
 テ一時ノ家禄ト假定シ當時入隊ノ者ハ
 其戸主ノ子弟トテ論セス一人米三石六
 斗宛ヲ給與セラレシカ明治四年廢藩置



縣ノ制出テ。欲兵解散セラレシヲ以テ曩
ニ兵給トシテ徵收セラレタル八分或ハ
六分ハ當サニ元禄へ復歸スヘキハ論ヲ
須タサル儀ニ付。全年十二月中舊仔万里
縣廳ヨリ古兵賦免除ノ儀大藏省へ伺ノ
末。今五年四月十日ヲ以テ伺之。通旨除禄
高復舊ノ旨公達相成タリ。然レ凡。竟ニ実
地ノ履行無之。僅ニ二分度ノモヲシテ
四分度リトシ。或ハ分先キヲ免セシム
ルニ止メ。到底一般ニ兵賦免除無之ニヨ
リ。翌六年三月私共一同連署シテ右公達
實地履行相成度旨懇願セシ所難聞届ト
御指令ニテ。昨下セラレシヲ以テ仍ホ

今年四月以降累々懇願。明治八年六月迄
同一ノ願伺書寄ラ上ルモ。凡テ十四回
而シテ遂ニ十一年一月ニ至リ。一切願意
難聞届ト。御指令アリタリ。抑前條哀願
ノ情実ハ分禄以來既ニ数年ノ久シキヲ
經過シ其間聊カ貯フル所。家什ヲ鬻キ
以テ終ニ糊口ヲ為スト。虽僅々タル家資
美ソ能ク久シク需用ニ給シテ妻孥ヲ養
ヒ家計ノ支持スルヲ得ン。今マ窮困愈切
ニ炊烟殆ト絶ヘ目下飢ニ泣キ寒ニ叫フ
モノ無慮三千餘戸。実ニ名状スヘカラサ
ル慘境ニ陥リ。不得止珉政府ノ威嚴ヲ冒
シ其実況ヲ。請陳教回上願ニ及ヒタル儀

ハ候得共退テ顧慮スルニ廟議ノ之ヲ
聴納セラレサルモ九年第百二十三
号分布等其允詩スヘカラサレ理由アリ
テ然ルナラント拝察シ前條兵賦免除ノ
哀詠ハ亦茲断念セリト虫如何セシ三千
有餘戸ノ者他ニ就產生計ヲ管ハノ道ナ
ケレハ前段其陳スルカ如キ慘状ニテ最
早此上自己ノカラ以テ支フヘキナク百
方術盡キ坐シテ以テ死ヲ待ツノ外更ニ
他策ナキニ至レリ然リト虫流ヲ收メテ
熟ラ思考スルニ宇宙間ノ萬物皆勞シテ
以テ其生ヲ保ツ豈坐シテ救助ヲ仰クヘ
ケンヤ奮然業ニ就カントシ伏シテ當今

ノ形勢ヲ熟察スルニ國中ノ物産未ダ興
隆ノ途ニ進マズ隨テ海外ノ輸入ヲ仰キ
輸出ノ平均ハ累年底止スル所ナカ
ラントス政府ニ於テモ專物産隆盛ノ主
意ヲ擴充セラレハ私共ニ於テモ深ク
感佩ノ至ニ不堪而シテ人生ノ最モ須要
タル草綿ノ如キハ從來内國ニ産出スル
モノ尠ナカラサルモ近年海外ヨリ輸入
アルニ至リ自然國民モ亦タ之ヲ使用シ
為メニ國産ハ稍衰退ノ色ナキニアラサ
ルヲ以テ日常之ヲ遺憾トセリ而ルニ本
縣佐賀郡ノ沿海ハ最モ該品耕作ニ適應
ノ地トス柳佐賀郡大野大井道大託摩寺

ノ各村沿海ノ地ハ舊藩知事歴代ニ於テ
莫大ノ新地ヲ築立シ隨テ各村落ヲ為ス
モ猶未々渺漠タル于馮ノ新耕地トナス
ヘキモノ數里ニ連亘セリ依テ此際同志
ヲ團結シ奮テ同地ニ物住シ拮据勉勵專
ラ開墾ニ從事シ本地適應綿草ヲ培植
セハ數年ヲ出スシテ其功ヲ奏シ一ハ以
テ國家ノ公益ヲ興シ一ハ以テ無産飢寒
ニ迫ルノ輩ヲシテ永産ヲ得ルノ地ニ看
カシメ將來無比ノ幸福ヲ蒙ルヘシト云
共事業タル素ヨリ遠大ニ歩ルカ故ニ共
資本モ亦若干ノ巨額ヲ要スルヲ以テ窮
困ノ私共能ク之ヲ支辨スルニ途ナク徒

ラニ焦慮スルノミニシテ之ヲ實地ニ施
スニ由ラシ依テ茲ニ更ニ一年懇願候條件
ハ偏ニ政府ノ慈仁ヲ仰キ別紙甲辨豫弄
表ノ金額ニ拾四万八千七百九拾四円五
拾錢貳重起業資本トシテ本年ヨリ約十
五ヶ年括置十六ヶ年目ヨリ十五ヶ年賦
込納ヲ以テ拝借御許可被成下度然ル上
ハ詠業着手毎年耕地開闢草綿産出ノ景
状及拝借資本込納割合利益金等ノ計弄
ハ別冊乙辨豫弄表ノ通ニ有之尚累年作
徳利益金ヲ以テ新地開成無産ノ輩ヲシ
テ漸次自立ノ基礎相立各自永産ノ土地
ヲ所有シ巧謂免セルヲ盡ニ骨ニ肉ワク

ルノ徳澤ニ浴ニ無量ノ大恩一同感泣ニ
堪ハス尤美際着子ニ方リテハ勿論沈嘆
鄭重ヲ專ラニニ亦適應ノ盟約ヲ結ニ官
ノ御監督ヲ仰キ只管精励成切ノ実績ヲ
奏ニ國家ノ臣民タル萬一ニ報ヒシトヲ
期スヘニ尤情願御制可相成候上ハ額金
額ヲ本年五月一同ニ御下渡相成度何卒
前陳数年窮迫ノ餘ノ生束就産困難ノ事
情尋深御諒察非常特別ノ御詮議ヲ下
願意御裁可被成下候様肺腑ヲ布テ此故
奉懇願候誠恐頓首

明治十四年